

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society, No. 42

目次

1. [第58回大会のご案内](#)
2. [各種委員会からのお知らせ](#)
3. [お知らせ](#)
 - 学会への寄贈図書
 - 新入会員
 - 年会費納入のお願い
 - 総会の開催について
 - 特別会員制度について

1. 第58回大会のご案内

第58回大会準備委員長 米澤 彰純

この度、日本比較教育学会第58回大会を北海道・東北地区において2022年6月24日(金)～26日(日)に開催させていただくことになりました。これまでの学会大会から数えますと、第11回(1975)東北大学、第27回(1991)北海道教育大学、第35回(1999)東北大学、第44回(2008)東北大学に続く5回目の開催となります。今回は、コロナ禍において大会を確実に開催することを優先的に考えた結果、オンラインによる開催といたしました。

大会日程については、(オンライン懇親会を含む)ほぼ例年同様に組んでいます。ラウンドテーブル・セッションやブック・ラUNCH・セッションや自由研究発表の時間帯も十分に設けておりますので、多くの会員のお申し込みをお待ちしております。

公開シンポジウムでは「Internationalization of Education Research and the Role of Comparative and International Education (教育学研究の国際化と比較国際教育学の役割)」をテーマとして、教育研究が全体として国際化していく中で、比較国際教育学がどのように独自の役割を果たしていけるのかについて、理論と実践を踏まえた幅広い視野から意見交換を行います。

また、課題研究Iでは、「学校における教員の役割・しごとを問い直す—コロナ禍での経験をとおして見えてきたこと」というテーマを設定し、主として「教員の役割・しごと」に着目し、コロナ禍に学校に求められたさまざまな「変更」「変化」に、かれらがどのように対応し

てきたのか、またそれらの「変更」変化は、教員養成を含め、今後の教員の役割・しごとにどのような影響を与えられると考えられるかについて、検討します。「変化」「変更」とともに、それらの検討をとおして見えてくる教員の仕事の「本質」についてもあわせて考えていきます。

課題研究Ⅱでは、研究委員会によって「高等教育における「リバーズ・ジェンダー・ギャップ」—東南アジアの国際比較—」が企画されています。本研究は、高等教育段階において男性よりも女性の数が上回る「リバーズ・ジェンダー・ギャップ」現象に着目し、その現象が見られる東南アジアの国々を主たる対象とする国際比較研究です。課題研究Ⅱでは、東南アジアにおけるリバーズ・ジェンダー・ギャップ現象の現状及びその現象を生じさせる背景や要因の解明を試みます。さらに、女性の高学歴化とワークライフキャリアが多様に結びつく東南アジアの事例を提示することにより、比較教育学における「ジェンダーと教育」研究に対する新たな視座の提供を目指したいと思います。

大会への参加・発表申し込み、発表要旨の登録などにつきましては、例年同様、ウェブ上で行っていただきます。加えて、会員の皆さまへのプログラムの郵送はせずに、ウェブ上からダウンロードしていただくことになります。

オンライン開催については会員の皆様に予期せぬ形でご不便をおかけすることがあるかもしれません。大会準備委員会一同、できるだけ準備は心がけますので、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

実り多い大会となりますよう、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

● **日本比較教育学会第58回大会のご案内**

(詳しくは大会のホームページをご覧ください。)

<http://www.gakkai.ne.jp/jces/taikai/58/>

● **大会日程**

2022年6月24日(金)～26日(日)

	9:00	12:00	13:00	15:00	17:00	18:00	19:40
6月24日 (金)	常任理事会		全国理事会			ラウンド テーブルI	ラウンド テーブルII
6月25日 (土)	自由研究発表I	自由研究発表II	シンポジウム	総会	懇親会		
6月26日 (日)	自由研究発表III	自由研究発表IV	課題研究I・II		若手研究者交流会		

● **大会当日までの主な日程**

2022年3月1日(火)	発表申込受付開始/参加申込受付開始
2022年4月6日(水)	発表申込締切(18時まで)
2022年4月11日(月)	発表要旨提出開始
2022年5月9日(月)	発表要旨提出締切(18時まで)
2022年5月16日(月)	大会プログラム(PDF)のウェブ公開
2022年6月10日(金)	発表要旨集録(PDF)のウェブ公開 ※大会参加費支払済の方のみ
2022年6月26日(日)	参加申込・大会参加費払込締切(12時まで)

- **大会参加費の振込みのお願い**

大会参加費の払込みは、原則クレジットカードによる決済をお願いいたします。参加申込完了画面からクレジット決済の手続きができます

(<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JCES>)。参加申込及び大会参加費の払込みは6月26日(日)正午まで受け付けます。

なお、払込み済の大会参加費は理由のいかんを問わず、返却いたしません。

日本比較教育学会第58回大会準備委員会 連絡先 〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院教育学研究科 劉靖 (大会事務局長) 研究室気付 日本比較教育学会第58回大会準備委員会宛 E-mail : jces58ht@gmail.com

2. 各種委員会からのお知らせ

紀要編集委員会

委員長 (後期) 森下 稔

紀要第64号が南部広孝委員長 (前期) のもとで1月31日付けで刊行されました。首都圏におけるコロナ感染拡大の影響でお手元へのお届けが3月初旬まで滞りました。お待たせして、申し訳ありませんでした。特集は第57回大会 (筑波大学・オンライン大会) の課題研究Ⅱ「学校に行けない子どもたち (OOSCY) とは: アセアン諸国における就学阻害要因と教育協力ネットワークの展開」をテーマとして5本の論考が掲載されました。自由投稿論文は、15本の投稿のうち4本が採択されました。

現在、第65号の編集を進めています。自由投稿論文は15本到着し、そのうち4本は形式審査で不受理とし、11本について査読を行いました。最近の不受理となる主な要因は、分量超過と英文要旨の単語数不足です。投稿にあたっては投稿要領をよく確認し、チェックシートによって慎重に確認するようにお願いします。分量超過は、注釈の行間が狭く表示され、1ページあたり36字×30行の規定のところ、大幅に多い行数で印刷されることで生じています。編集委員会事務局では、規定通りの設定に表示し直して、分量を確認しています。英文要旨については、800語~1,000語と単語数が規定されています。下限があることに注意願います。その他の規定についてもすべて満たされている状態で投稿してください。

第66号の論文投稿は2022年7月20日 (当日消印有効) が締め切りとなっています (投稿先は枠内の通りです)。会員の皆様には精力的なご執筆と積極的な投稿をお願いいたします。

【原稿提出・連絡先】 紀要編集委員会事務局 (第65号~67号)

住所: 〒135-8533 東京都江東区越中島2-1-6

東京海洋大学 森下稔研究室気付

日本比較教育学会紀要編集委員会事務局 宛

Email: jces.kiyou@gmail.com

Tel: 03-5245-7528 (森下稔研究室)

研究委員会

委員長 乾美紀

第 57 回大会後の取り組みとして 3 つ報告致します。まず、2021 年 9 月に「若手研究者のための科学研究費補助金申請支援講座」を開催し、森下稔会員を講師に迎え、採択に近づけるための留意点や工夫について講義を受けました。審査員の視点からの解説は参加者から高い評価を受け、申請した参加者のうち半数以上が採択されたという喜ばしい成果を得ることができました。次に、2021 年 12 月に若手ネットワーク委員会と合同で公式研究発表会の開催をしました。研究成果だけでなく研究計画の発表も設けたために大いに議論が盛り上がる会となりました。最後に、第 57 回大会の課題研究Ⅱにおいて発表した『学校に行けない子どもたち (OOSCY) とは』が紀要 (第 64 号) の特集として取り上げられたことです。出版にあたり、丁寧に対応して下さった紀要編集委員会の先生方や研究に協力して下さった先生方にこの場を借りてお礼を申し上げます。

第 58 回大会では 2 つの計画があります。まず 課題研究Ⅱは「高等教育におけるリバーズ・ジェンダー・ギャップ—東南アジアの国際比較—」を企画しました。趣旨は米澤大会準備委員長が記して下さったとおりです。福留東士会員の司会のもとに、鴨川明子会員、久志本裕子会員、服部美奈会員、市川誠会員、羽谷沙織会員が研究成果を発表し、黒田一雄会員がコメンテーターを務めて下さいます。

次に同大会のラウンドテーブルでは若手支援企画として「困難な状況下における海外調査一着想から論文執筆に至るまで」を実施します。比較調査研究の要でもある海外フィールド調査がほぼ不可能な状況が続いていますが、このような困難な状況の中で若手の研究者たちはどのように研究を進めているのでしょうか。そしてどのように研究の着想に至り、工夫して海外フィールドに関わる調査を行い論文を執筆しているのでしょうか。小職と市川桂会員が企画、松本麻人会員が司会を担当し、坂口真康会員、黒川智恵美会員に発表を依頼しております。ぜひ奮ってご参加下さい。

第 58 回は再びオンラインでの開催となりますが、皆様とお話できることを楽しみにしております。

若手ネットワーク委員会 (Y-Net)

委員長 鴨川 明子

1. 活動の報告とお知らせ

「若手ネットワーク委員会 (Y-Net)」は、これまで研究委員会が担っていた若手支援企画を引き継ぎ、運営しています。

本委員会では、須藤玲学生会員代表や黒川智恵美会員をはじめとする学生会員が、2021 年 12 月に研究発表会 2021 を研究委員会とともに開催しました。

また、2021 年 10 月からほぼ毎月 1 回 (月曜朝 9 時~11 時) のペースで、インヴィジブル・カレッジ・セミナー (ICS) を開催しています。これまで、牧貴愛会員 (聞き手 須藤玲会員、以下同)、関口洋平会員 (木村祐介会員)、大塚豊会員 (飛田麻也香会員・牧貴愛会員)、小川未空会員 (八木歩会員)、山田肖子会員 (田島夕貴会員) を語り手にお招きし、ライフストーリーを伺いました。

今後は、①第 58 回大会にて、ラウンドテーブル「比較教育学のライフストーリー (中間報告会)」を企画します。②また、第 58 回大会最終日の夕刻に、吉田和浩会員と芦田明美会員をお迎えし、若手研究者交流会を開催します。③さらに、ICS には、5 月 16 日に杉村美紀会

長（聞き手 朝倉隆道会員・乾美紀会員）、7月に福留東土会員（守谷富士彦会員）をお迎えする予定です。④ICSでの聞き取りの内容については、若手研究者必携シリーズ第三弾『若手研究者必携 比較教育学のライフストーリー（仮）』（東信堂）として、出版準備を進めております。

2. メンバーと企画の募集

委員会の運営にたずさわりたい学生会員（大学院生）や若手研究者を募集いたします。また、本委員会へのご要望（企画案）などありましたら、ぜひ忌憚のないご意見を下記問い合わせまでお寄せください。なお、当面すべての企画は、オンラインでの開催を予定しております。

問い合わせ メール jces.ynet@gmail.com

国際交流委員会

委員長 北村 友人

JCES-WCCES 国際シンポジウムの開催（2021年11月19日）

世界を見渡すと、欧米の比較教育学会はある程度成熟し、国際的な学術界における存在も大きく、それらの学会が展開している事業（学会大会、学会紀要、等）は広く認識されている。他方、アジアに目を向けてみれば、日本、韓国、中国等の東アジア地域では歴史の長い比較教育学会も見られるが、東南アジア等の新興国が多い地域では比較教育学分野の学会自体が成立間もない、あるいは未だ学会として成立していない状況にある国も見られる。

そこで、アジア地域における比較教育学会のあり方を広く検討することを目的として、日本、韓国、中国、香港、ベトナム、マレーシア、フィリピンの各国・地域における比較教育学会の会長あるいは国際的に活躍する比較教育研究者たちに登壇していただき、国際シンポジウム（ウェビナー形式）を開催した。

各国における比較教育学会がどのような成り立ちや経緯を経て現在の形を形成してきたのか。また、比較教育学会は各国においていかなる役割を果たし、今後はどのような期待がなされているのか。さらに比較教育研究者はいかなる役割を担い、COVID-19以降の世界にどのように貢献していくことが可能であるか。これらの問いへの回答を軸としながら、活発な議論が交わされた。

なお、本シンポジウムは、世界比較教育学会（WCCES）主催の第4回 WCCES Symposiumの一環として開催した。シンポジウムの詳細は、以下の通りである。

Expected roles of comparative education societies in Asia:

past, present, and future prospects

An international symposium of the Japan Comparative Education Society

19 November 2021, 18:00-21:15 (JST)

MC: Dr. Yohei Sekiguchi, Lecturer, Kio University

Dr. Akemi Ashida, Assistant Professor, Waseda University

Agenda

Time	Session
18:00 – 18:15	Opening remarks

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Yuto Kitamura</i>, Professor, Graduate School of Education, The University of Tokyo, and Chair, JCES International Exchange Committee
18:15 – 19:30	<p>Session 1: Sharing case studies on Comparative Education and academic society in the countries and regions—East Asia</p> <p>Chair: <i>Dr. Jing Liu</i>, Associate Professor, Tohoku University, Japan</p> <p>Japan Comparative Education Society</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Miki Sugimura</i>, Professor, Sophia University, and President, Japan Comparative Education Society (JCES) <p>China</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Baocun Liu</i>, Professor and Director, Institute of International and Comparative Education, Beijing Normal University, and Director, China Comparative Education Society <p>Korea</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Jonghyeok Yoon</i>, Senior Research Fellow, Korean Educational Development Institute (KEDI) <p>Hong Kong</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Jae Park</i>, Assistant Professor, Department of International Education, The Education University of Hong Kong, and President, Comparative Education Society of Hong Kong
19:30 – 19:45	Break
19:45 – 20:30	<p>Session 2: Sharing case studies on Comparative Education and academic society in the countries and regions—ASEAN</p> <p>Chair: <i>Dr. Jing Liu</i>, Associate Professor, Tohoku University, Japan</p> <p>Philippines</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Virgilio Manzano</i>, Professor and Dean, Institute of Graduate and Advanced Studies, Urdaneta City University, and President, Comparative Education Society of the Philippines <p>Viet Nam</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Tăng Thị Thùy</i>, Head of Department of Educational Evaluation, Faculty of Quality Management, VNU-University of Education <p>Malaysia</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ <i>Dr. Vishalache Balakrishnan</i>, Director of Centre for Research in International and Comparative Education (CRICE), University of Malaya

20:30 – 21:00	Session 3: Open Discussion Chair: Dr. Yuji Utsumi, Associate Professor, Nagoya University, Japan
21:00 – 21:15	Next Steps and Closing remarks <ul style="list-style-type: none"> ▪ Dr. Kazuo Kuroda, Professor and Dean, Graduate School of Asia-Pacific Studies, Waseda University, and Chair, WCCES Research Standing Committee

世界比較教育学会（WCCES）からのお知らせ

WCCES 担当理事 杉村 美紀

1. 第4回 WCCES シンポジウム開催報告

第4回 WCCES シンポジウムは、2021年11月18～20日にヴァーチャルによる会議により開催されました。日本比較教育学会からも多くの会員が御参加・御発表いただき、いろいろとご協力いただきましたことに心からお礼申し上げます。また日本比較教育学会も共催団体として参画し、国際交流委員会によりアジア地域における比較教育学の展望を内容としたシンポジウムを11月19日、午後6時（日本時間）より、午後9時15分までの枠で開催しました。国際交流委員会の北村友人委員長ならびに交流委員会の先生方のご尽力に感謝申し上げます。同シンポジウムにはWCCESのルモンバ会長ならびにBedi事務局長も御参加いただきました。詳細は、本ニュースレターにある国際交流委員会の報告をご参照ください。

2. 第5回 WCCES シンポジウムの開催計画

WCCESは、本年2022年11月16～18日に、コロナ感染症の状況を見ながらハイブリッド形式で第5回 WCCES シンポジウムの開催を計画しています。詳細がわかりましたら、またメーリングリスト等でお知らせいたします。

3. WCCES-Brill | Sense Book Series の刊行

WCCESでは、比較教育学に関する論文集を一連のシリーズとして順次刊行しています。現在は、“Comparative Education for Global Citizenship, Peace and Shared Living through Ubuntu”の刊行準備が進んでいます。

5. その他

(1) 第18回 WCCES 世界大会は、コロナ禍の影響を受け当初の予定を延期し、2023年に開催が計画されています。

(2) WCCES ウェブサイトのご案内

WCCESに関する様々な情報は、WCCESのウェブサイトより御覧いただけます。
<https://www.wcces-online.org/>

教育関連学会連絡協議会

担当理事 中矢 礼美

教育関連学会連絡協議会の総会が3月12日に行われ、入会と脱会の審議、活動報告と会計

報告、次年度の活動方針協議が行われました。同日に公開シンポジウム「世界の高大接続の現状と課題」が開催され、南部広孝先生がご登壇されました。連絡協議会では、今期も様々な研究交流やシンポジウムを企画する予定です。何か連絡協議会への研究交流に関するご提案・ご要望がありましたら、是非お知らせください。

3. お知らせ

● 学会への寄贈図書紹介

以下の図書を、著者・出版社より本学会にご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。なお、紀要および研究報告書の寄贈については、数量多数のため、掲載を割愛させていただきます。ご了承ください。

- 宋美蘭編著『韓国のオルタナティブスクール - 子どもの生き方を支える「多様な学びの保護へ」』明石書店、2021年 (<https://onl.la/DhmqlLK>)
- ロシア・ソビエト教育研究会 嶺井明子、岩崎正吾、澤野由紀子、タスタンベコワ、クアニシ 編著『現代ロシアの教育改革 - 伝統と改革の<光>を求めて』東信堂、2021年 (<https://onl.la/HkEKEhY>)
- 坂口真康著『共生社会と教育 - 南アフリカ共和国の学校における取り組みが示す可能性』春風社、2021年 (<http://www.shumpu.com/portfolio/825/>)
- 萱島信子著『大学の国際化と ODA 参加』玉川大学出版部、2019年 (<http://www.tamagawa-up.jp/book/b432613.html>)
- 2019年度地域コアリーダープログラム・イタリア派遣団編『イタリアで見つけた共生社会のヒント フル・インクルーシブの教育に基づく人々の暮らし』あけび書房、2021年 (<https://onl.la/AE1ZaLC>)
- 渡邊雅子著『「論理的思考」の社会的構築 フランスの思考表現スタイルと言葉の教育』岩波出版、2021年 (<https://onl.la/rNpjhQ5>)
- 柿原豪著『外国につながる児童生徒の教育と社会的包括—日本とニュージーランドの比較にもとづく学校教育の制度イノベーション』春風社、2021年 (<http://www.shumpu.com/portfolio/837/>)
- 京免徹雄著『現代キャリア教育システムの日仏比較研究』風間書房、2021年 (<https://onl.la/6sVnxDq>)
- 佐藤千津編著『コミュニティの創造と国際教育』明石書店、2021年 (<https://onl.la/k1MfE7M>)
- 山崎智子『イギリス大学制度成立史—国家と大学のダイナミズム』東信堂、2021年 (<https://onl.la/BQq5Uyt>)
- 平田文子『デュルケーム世俗道徳論の中のユダヤ教』ひつじ書房、2022年 (<https://onl.la/RybQ418>)
- Takayo Ogisu, *Reforming Pedagogy in Cambodia: Local Construction of Global Pedagogies*, Springer Nature Singapore Pre.Ltd. 2022. (<https://onl.la/DGD74jj>)
- 日下部達哉編著『イスラーム教育改革の国際比較』東信堂、2022年 (<https://onl.la/s2PZgd2>)
- 内海成治・桑名恵・大西健丞編『緊急人道支援の世紀—紛争・災害・危機への新たな対応』

- ナカニシヤ出版、2022年 (<http://www.nakanishiya.co.jp/book/b597551.html>)
- 押川文子監修、小原優貴・茶谷智之・安念真衣子・野沢恵美子編著『教育から見る南アジア社会—交錯する機会と苦悩』玉川大学出版部、2022年 (<http://www.tamagawa-up.jp/book/b601451.html>)
 - 園山大祐・辻野けんま編著『コロナ禍に世界の学校はどう向き合ったのか—子ども・保護者・学校・教育行政に迫る』東洋館出版社、2022年 (<https://onl.la/uFDiaq5>)

図書・刊行物の送付、学会運営に関する連絡

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学グローバル教育センター207
日本比較教育学会事務局（丸山研究室）
E-mail: jcesjim@outlook.jp
TEL: 050-5800-4873
(不在のことが多いため、できるだけメールでご連絡ください。)

- 新入会員
<WEB版では非公開>

- 年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある方は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたします。紀要は年2回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕00820-6-16161 日本比較教育学会事務局

【注意】

所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員を特定することが難しいため、必ず事務局へご連絡をお願いします。

「学生会員」として登録されている会員で、所属・身分等の変更により「学生」でなくなった方は、会員情報管理システムにて通常会員へ資格変更の上、通常会員としての年会費（10,000円）をお支払いください。

会員情報、入退会、会費、システム、HPに関する連絡

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1
第2ユニオンビル4F
(株)ガリレオ東京オフィス学会業務情報化センター内
日本比較教育学会事務局
Tel : 03-5981-9824/ Fax : 03-5981-9852
E-mail : g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp
URL : <http://www.gakkai.ne.jp/jces/>

● **総会の開催について**

日本比較教育学会では、本会の最高決議機関である総会の開催について、「年一回これを開き本会の重要事項を審議決定する。」（会則第5章第18条）とされています。本年度の第58回大会総会の詳細については、また追ってメーリングリストを通じてお知らせいたします。

● **特別会員制度について**

すでにご案内申し上げますとおり、2020年8月に開催された総会にて、「特別会員」制度が認められました。この制度は「本会に対して一定の貢献があり、原則として10年以上にわたり本会の会員である者。かつ、常勤の定職にはついておらず学生の身分ではない者。」（会則第4条関係：細則第2条）となっており、会費は年額金6,000円です。特別会員になる場合には、学会事務局に申込み、常任理事会での承認を得ることとされています。お申し出は随時、学会事務局（jcesjimu@outlook.jp）で受け付けております。